

令和3年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和4年3月29日

学校法人のびる学園
幼保連携型認定こども園
のびる幼稚園
園長 山田佳奈子

学校評価委員会 佐藤真吾 小野啓一 中野英輔
山脇良子 佐藤真樹 津田一三

1. 本園の教育目標

「自分で遊びを見つけられる子」

遊びは、子どもの生活の全てです。自分で遊びを見つけられる事ができたときに、子どもは初めて自己の確立の第一歩を踏み出したこととなります。一人遊びでも集団遊びでも子どもが見つけた遊びを否定せず、認める事が大切だと考えます。

「他人を思いやる心」「自然を大切にすること」「自分を大切に思う心」は、自分で遊びを見つけられる子になる大切な3つです。そしてのびる幼稚園が大切に思っている「博愛」の大切な表れだと考えます。

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

＜今年度 学年目標＞

- 0歳児…一人ひとりの発達に応じた援助のもと、離乳の完了や歩行の完了を促し、身の回りのものへの興味・関心を広げる。
- 1歳児…一日の生活リズムを整えながら、食事・排泄・着脱など、身の回りのことを自分でしようとする
- 2歳児（満3歳児）…象徴機能や想像力を広げながら、集団活動に参加する。
- 3歳児…身近な仲間や自然等の環境と積極的にかかわり、意欲を持って活動する
- 4歳児…信頼感を深め、仲間と共に感情豊かな表現をする
- 5歳児…集団生活の中で自立的・意欲的に活動し、体験を積み重ねる

＜今年度園内研修＞

遊びや生活の中で、自分から進んで学び、楽しいことを発見したことを伝え合い、力を合わせて活動できる ～今ある子どもの姿を大切に、保育を考える～

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	教職員間のコミュニケーションの円滑と環境作り	C	新しい職員が増え、新年度をスタートさせたが、体調不良や諸事情にて、途中退職する職員が、例年より多くいたため、職員の入れ替えが多くなった。その都度、教師間のコミュニケーション能力の向上に努めるよう心掛け、後輩保育教諭に指導しようとする姿が見られるようになった。しかしながら、保育中に、新しい保育教諭に指導しなくてはいけないことが多いため、言葉足らずになり、うまくコミュニケーションが取れないことが多々あった。お互いのことを理解する時間、余裕がないことが原因となるため、お互いに理解を深めていけるようサポートをしていくことが、今後の課題となる。業務分担においては、自分の役割を果たそうと努める姿が見られた。

2	<p>園内研修に取り組む 「遊びや生活の中で、自分から進んで学び、楽しいことを発見したことを伝え合い、力を合わせて活動できる ～今ある子どもの姿を大切に、保育を考える～」</p>	B	<p>子ども達が、現在多くの学びの途中であることを保育教諭は肯定的に受け止め、子どものできないを指摘するのではなく、できるが多くなるような保育を考えた時に自然と優しい言葉・丁寧な言葉でお話できるようになると考え、次年度の研修につなげて行きたいという意見に到達した。 コロナ禍で子どもが育ったこと。 ・衛生安全習慣が身についた ・順番が守れるようになった ・食事に集中するようになった 育ち体験が不足したこと ・園全体活動の不足により、年齢を越えたコミュニケーション不足 ・イラつきの解消・乗り越え等 子ども達の心情を探り、コロナウイルス感染症状況を踏まえながら保育環境を考えてきた。子どもの育ちの経験不足等、課題が多くあり、十分とは言えない対応もあったかと思うが、教師間で次年度の課題として受け止め、今年度の経験を生かして繋げていきたい。</p>
3	<p>園独自のマニュアルを見直し、職員間で共有し統一する。</p>	B	<p>新型コロナウイルス感染症の情報を、色々な所から得て、マニュアルを見直していった。 また、虐待防止マニュアルを作成し、身体測定時を中心に、子ども達の身体の状況の確認・普段の子ども達の心情を探るよう、心掛けた。 園外保育・バス乗車時等、マニュアルを読み出かけるようにした。他のマニュアルにおいても、その都度、目を通し、共通理解を図るとともに、実践の折、不都合があれば、改訂するように心がけた。</p>
4	<p>会議方法の見直し</p>	B	<p>全員集合しての共通理解の時間がシフトの中でどうしても困難であることがわかった。 17時からの短い職員会議では、共通の理解に至るまで難しいものがあり、主任会議を月1回行うよう心掛け主任保育教諭から、クラスの保育教諭への伝達をするような会議とした。 そのため、行事の開催方法を決めるのが遅くなっても、今までより短時間で明確になった。 時間がない中での会議となるため、事前に話し合いの内容を決める・1つのことに重点を絞るような会議内容としていった。</p>

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

4. 総合的な評価結果

評価	理由
B	<p>新型コロナウイルス感染症対策のため、行事の開催方法に悪戦苦闘する1年となりました。その時々状況に合わせて急遽変更しなければいけないことも多々あった。運動会は初めてのリモート形式とさせていただいたり、1月の歌とオペレッタの会を急遽園児・保育教諭が嘔吐下痢症状者多数となり、3月に変更となる等、保護者の皆様に、協力していただくことが多い1年となりました。</p> <p>毎日の園内消毒や換気等、心掛けてきましたが、園内で新型コロナウイルス感染症が発症したため、登園の自粛を保護者にお願いした。(2月4日間・3月2日間の計6日間)自粛期間中、自粛期間後は、密を避けるため、学年ごとに外に出る等、更なる他学年との関わりが減ってしまった。インフルエンザ等の感染症はなかった。</p> <p>例年、園全体で関わり遊んでいるため、大きい子から小さい子への関わりの中で、優しさ・遊びの技術等を学ぶことが多かったが、そのような機会が減ってしまった。子ども達は、バスやお迎え時等のちょっとした関わりに、小さい子への優しさが見られた。今年度不足した分は、来年度、意識して活動に入れていきたい。</p> <p>今年度も保護者への園の立ち入りを縮小し、行事の方法も密にならないようにしたため、園での様子が保護者に伝わらないため、動画配信「おうちえん」を導入し、園での子ども達の姿が家庭で見られるようにした。</p> <p>職員の作業能率も図り、パステルを導入し、各クラスにパソコンが用意された。出欠の確認・指導案・保護者から連絡がスムーズに出来るようになったが、2月からの導入なので、今後、教師間で使い慣れ、更に仕事の能率が良くなることを期待する。</p> <p>今回導入した時に、園内で新型コロナウイルス感染症が発症したため、自粛中、家庭での子ども達の体調の様子が変わり、また、保護者への連絡もメールを通してスムーズで良かった。</p>

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

5. 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	教師間の連携	<p>お互いに心地よく感じる挨拶・言葉遣いに心掛け、教師間のコミュニケーション能力の向上に努める。他人任せにせず、積極的に仕事を進める。自分の問題点や良い点を発見し、保育教諭としての資質向上に図る。子どもの安全を守るため、職員間の声かけを心掛ける。</p> <p>お互いを理解し、分かり合える職員間のつながりが必要。(お互いに言い合える環境づくり)</p>
2	園内研修	<p>園内研修課題「遊びや生活の中で、自分から進んで学び、楽しいことを発見したことを伝え合い、力を合わせて活動できる～今ある子どもの姿を大切に、保育を考える～」について、考える。</p> <p>学年のことも、時には園全体のことと捉えて、目の前の保育を中心に園内研修を行う。園全員の職員で一人一人の子ども達を見守る、のびる幼稚園本来の保育、チーム保育を見直して行く。</p> <p>あらゆる活動体験を通して、観察を充実させ、記録しそれを基に研究を進める。</p> <p>子ども達が心体ともに元気になり、夢中に遊ぶことで友達の思いを受け止める機会が増す。そのため環境を考察し整える。</p>
3	会議方法	<p>現状報告から解決方法を見いだすことができない会議が多くなってしまった。</p> <p>短時間でスムーズに会議が進めるよう、会議内容を事前に提示し職員一人一人が意見を出せる場を作っていきたい。</p>

① 遊びについて（子ども達の遊び・在り方等について）

- ・のびのびと園庭で遊んでいる様子を見て嬉しく思いました。また、先生方の目の配り方にも感心しています。
- ・自分の好きなことに集中している子どもの姿も美しいですね。
- ・次から次へ色々挑戦していく子どもも多く見受けられます。
- ・限られた環境の中で、子ども達がストレスを感じないように、遊びが工夫されていたと思います。（身体を使う遊び、鬼ごっこ等を多く取り入れられていた。）
- ・絵本も家で読むと「これ幼稚園でも読んでもらった」「この本は幼稚園にもあるよ」等、教えてくれることがありました。これからも、絵本の読み聞かせ等、大切にしていって欲しいです。
- ・新しい遊びの創造に取り組む工夫が欲しい。
- ・新型コロナウイルスの影響で、様々なことが制限され大変な1年でしたね。その中でも園独自のマニュアルを作り、学年ごとに遊ぶ場所を変えたりと、様々な配慮をしていた。
- ・新しい先生の指導を行いながらの保育というのは大変ですね。その中で全体のコミュニケーションというのはとても大切な事だということを感じました。次年度の課題が達成できることを願っています。

② 子ども達への取り扱い（職員の話し方・保育の進め方・保護者対応等について）

- ・全体的には、皆さん頑張って指導していると思います。保護者対応もよく出ています。
- ・もう少しにこやかな顔で子ども達に接しても良いかな？という方も目に付きます。（笑顔は美しいですね。）
- ・バスの送り迎えでお会いすることが多いですが、皆さん対応が良いです。
- ・先生たちが笑顔で挨拶している。
- ・子ども達のことをよく見ている。
- ・コロナ禍で大変でしたが、良かったこととして、衛生管理習慣が親子共々身に付き、病気知らずの1年になりました。家庭だけでは、ここまで徹底できていなかったと思います。園から定期的に呼びかけ、園で徹底していただいたおかげで、親が言う前に、手洗い・うがいをしてくれるようになり驚きました。しかし、思いっきり外で遊べない等のイラツきの解消・乗り越え方というのは、保護者も含め、今後の課題だと思います。

③ 行事について（進め方・開催方法等について）

- ・コロナの影響で行事がスムーズに出来なかったことは残念です。しかし、行事事態への教師・園児の取り組みは素晴らしかったと思います。
- ・「歌とオペレッタの会」では、どの組も良く取り組んでいました。特に歌の声の素晴らしさには感心しました。きれいな声でした。
- ・コロナ・嘔吐下痢症等のため、行事の開催方法等、1つ1つその時の状況に合わせて行っていました、大変だったことと思います。安全面のことを最優先にしたことは良かったと思います。
- ・楽しい行事が多かった。
- ・今年度も、全体行事は、オペレッタ以外は出来ませんでした。しかし、「おうちえん」を使用開始したのは、良かったと思います。今まで見る事ができなかった日常生活や練習風景を見ることができ、とても有難いと思いました。次年度以降も続けて欲しい。しかし、他の学年もしっかりと自分の目で見たいので、コロナ次第ですが、全体行事が例年通りできることを願っています。

④ その他ご意見がありましたら、お願い致します。

- ・先生方が本当に一生懸命頑張っています。良く働いています。
- ・色々な問題があると思いますが、よく話し合えば問題解決すれば良いですね。
- ・コロナ対策大変ですが、よくやっています。大変な時期をよく乗り越えてやって下さいました。
- ・音楽を通して、子ども達の心を育てて下さっていることがよくわかりました。
- ・友達と一緒に、心を合わせるということは大切なことだと思います。歌や楽器はみんなの楽器の音が合っている、1つになっているということが、子ども達にとって分かりやすい教材だと思います。今後も大切にしていって下さい。
- ・のびるらしさの教育に自信をもって進めて欲しい。
- ・職員間の信頼関係の不足を補うための工夫・苦勞が目立つ。